



鍋パーティー



greentea0117

鍋パーティー

鍋パーティーをすることになった。会社関係の人が来るのだが、その友達もそのまた友達もくるとかで、一体何人来るのやら。お正月につく鐘のような大きな鍋が欲しい。

鴨鍋？ キムチ鍋？ いろいろ考えた結果、家にある香辛料やら香味野菜を全部入れてみることにする。そんなアバウトな鍋、身内ならまだしも会社関係の人に食べさせるのもどうかと思うが、ま、どうでもいいか、という感じ。そう、私は会社にほとんど嫌気がさして、辞めたいと思わない日はなかったのだ。

棚の中で一番最初に目についたのは、カレー粉だ。すべて鍋に投入する。カレースープのようになった。次に目についたのはシナモン。これもカレー味に負けないよう大量に投入。はちみつ、ケチャップ、マヨネーズ、投入。これは隠し味程度。昔お菓子を作るのに、一回使ったきりの調味料もたくさん出てきた。グローブ、ナツメグ、ラム酒。それらもすべて投入。私は鍋をかき混ぜた。何とも言えない色、そして匂い。人を呪い殺す薬を作っている魔女にでもなった気分だ。

それから海鮮をどばっと入れた。ほたて、はまぐり、エビ、イカなど。キャベツをおおざっぱに切って皿に盛る。しめの麺も、スタンバイオーケーだ。

時間になると、人がどやどやとやってきた。

「いらっしやい」

私は鍋に火をかけて、キャベツを入れた。お土産にもらったシャンパンで乾杯。狭いアパートに三十人ぐらい人がいる。

私はそのときふと思った。この人たちとはこれが最後になる。私は会社を辞め、どこか別のところへ行くだらう。

「この鍋、すごくおいしい」

同僚の奈々子が言った。彼女には辞めることをちゃんと話すべきだろうか。

「何入ってんの？」

私は鍋に入れた調味料とその分量を全部メモして奈々子に渡した。

さよなら、奈々子。

鍋はかなり辛く、少し酸っぱかった。